

◎ 発行 中京大学

〒466-8666
名古屋市中区八事本町101-2

■ 広報部
TEL. 052-835-7135
■ スポーツ振興室
TEL. 0565-46-6935

http://www.chukyo-u.ac.jp

中京大学スポーツ

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

2012 (平成24) 年
10月30日

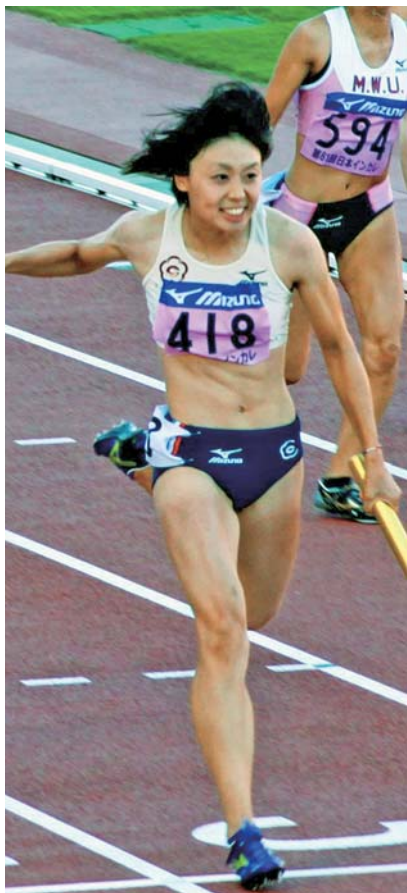
第2号

△写真左▽400mリレー決勝で1着でゴールした市川選手△同中▽1500mでゴールする中村選手△同右▽5mリレーに挑戦する山本選手△東京・国立競技場でII (国際教養4 伊勢村優樹撮影)

五輪を糧に進化

ロンドンオリンピックに出場した経験が、3人の学生アスリートをつましく成長させている。日本勢48年ぶり出場の女子400mリレーで第2走者を務めた市川華菜選手（体育3）、専門の十種競技とは別の400m障害に出場した中村明彦選手（体育4）、初の海外試合だった棒高跳びの山本聖途選手（体育3）（いずれも岡崎城西出身）。3人とも五輪では予選で敗退したものの、1か月後の9月に東京・国立競技場で開催された日本学生陸上競技対校選手権（インカレ）で初優勝を飾り、五輪代表の実力を見せつけた。ロンドンの経験を糧に、アスリートとして力強く歩みを進めている。

代表3選手インカレ制覇



市川華菜選手

3冠を達成

市川選手は、インカレで格の違いを見せつけた。100m、200mで2位以下を寄せ付けず、400mリレーでは数人をひぼう抜き、3冠を達成した。ロンドン五輪では日本を代表して戦う重圧の中で、十分に力を発揮できなかったが、1か月後、その重圧から解放されたようだった。

ロンドンでは試合の直前に、400mリレーの第2走者を指名された。昨年、日本新記録を樹立した時はアンカーだった。「やらなきゃ、と思ったけど、第2走者は初めての経験なので不安があった」。結果は、日本記録に0.46秒及ばなかった。悔しさが残った。「この悔しさは、オリンピックでないと晴らせない。またこの舞台に戻ってきたい」と思った。

来春に卒業した後も、中京大学を拠点に練習をする予定だ。リレーで第1走者だった高校生の土井杏南選手とは、ロンドンで誓い合った。「私たちで4年後に向けて頑張っていこう」と。



中村明彦選手

夢は4年後

オリンピック・スタジアムでは、十種競技の人気のひととき高かった。欧州では十種競技の勝者を「キング・オブ・アスリート」と呼んで称える。スタンドから観戦した中村選手は、「海外の選手たちは、観客8万人の力を味方にして戦っていた。自分もこの中でやりたいと思った」。

十種競技が始まる5日前、400m障害予選に出場した中村選手は、ひざがコースをほみ出したと判定され、失格。タイムも納得いかなかった。「選考会の時から、ここで戦うことを意識しないといけなかった。その意味で準備が足りなかった。貴重な体験をしました」。400m障害は、高校3年から始めた十種競技に次ぐ得意種目だが、ロンドンでの経験は無駄ではなかった。

9月のインカレでは、十種競技で初優勝した。表彰台の中央に立ち、涙が出た。2年生の時から狙った位置だったが、「4年かかった。長く辛かった」。4年後、五輪の舞台で涙を流したい。



山本聖途選手

欧米で修業

助走の距離を測るメジャーが日本とは違った。跳躍を左右する風も吹いていた。山本選手は五輪会場で、5m30cmのバーを3回とも落とす。「試技では5m50cmは跳んでいるのに。たった5分で終わってしまった」。悔しくて、試合後も夜中の2時までユニフォームを着たままでいた。

実力のある外国人選手は踏み切りの位置、風に対応したポール選びを、コーチの助言に頼らず、自分で修正していた。加えて数時間の試合中、互いに助け合い、励ましあって競技を盛り上げていた。競技に取り組む環境の大切さを知った。「自分もそうならないといけない」と感じた。

インカレは5m40cmで初優勝したものの、自己の持つ5m62cmの学生記録にとどかず、不満だった。今後の課題は明確だ。より筋力をつけ、走力、技術を磨く。今冬はアメリカで合宿、欧州での転戦も検討している。海外で場数を踏み、世界の舞台で跳躍するつもりだ。

中京大学は、学生アスリートの育成を強化するため、トレーニング指導など総合的な支援をするプロジェクト「CISP」(Cyukyo Institute of Sports Performance)を本格的に展開している。ハンマー投げ第一人者の室伏広治・スポーツ科学部准教授を3年間支援した米国AP社(本部・アリゾナ州)と委託契約を結び、プロのフィジカルトレーナーによる直接指導を取り入れている。大学が海外の専門企業のアスリート支援ノウハウを導入するのは全国で初めて。

CISP本格化

昨年度から始めたトレーニング指導は、選手が競技を続けるのに必要な身体づくり、けがをしにく



室伏准教授

い体づくりに重点を置いていた。欧米プロチームの指導経験もあるAP社の咲花正弥氏、阿部勝彦氏が年4回来日し、1回約2週間、本学の陸上、水泳、サッカーなどの中心選手らに訓練方法を教えている。指導を

生活の経験を踏まえ、「国

実させる今回のプロジェクト

受けたのは、ロンドン五輪

代表の市川華菜選手ら35

この間にノウハウを蓄積

学生アスリート育成強化 全国初の海外ノウハウ導入

CISPは今後、トレーニング指導に加え、栄養指導も進めるほか、理学療法なども含めた総合的な支援プログラムを検討している。AP社とは、昨年度から5年契約を結んでおり、

中京大学のスポーツ情報 大学HPの「スポーツ」(http://sports.chukyo-u.ac.jp/)、face book「スポーツ振興室」(左下QRコード)で紹介しています。「中京大学スポーツ」に関するご意見は、スポーツ振興室(sports@mng.chukyo-u.ac.jp)へお寄せください。

室伏准教授が五輪銅

被災地との 約束果たした

「東日本大震災の被災地復興を支援するために、メダルを取る必要があった」。ロンドン五輪ハンマー投げで銅メダルに輝いた室伏広治選手（スポーツ科学部准教授）は、トップアスリートとして社会に貢献する意義を強調している。

室伏選手の五輪出場は4大会連続だった。ロンドン大会では8月6日（日本時間）の決勝で、3投目に今季自己ベストの78.71を記録。04年アテネ大会の金メダルから2大会ぶりのメダルとなった。

室伏選手は大震災発生後、東北の被災地を支援する活動を続け、

交流を持った中学生らに「メダル」を約束してきた。「4年前の北京大会は5位だったが、今回は被災地に勇気を与えるためにメダルを目標にしてきた」と語る。同時に、「皆さんに協力、支援していただいたおかげです」と、大学関係者に感謝した。

松田選手は銀と銅

ロンドン五輪では、室伏選手、学生3選手のほか、競泳の松田志選手（09年体育学研究科修了）が、400メートルリレーで銀メダル、200メートルバタフライで銅メダルを獲得した。



伊藤選手「水の王者」復活

日本新でリオ五輪へ第一歩

自由形で50メートルを泳ぎ切り、電光掲示板を振り返ると、「22秒05 NR（日本新記録）」と表示された。どよめきと歓声が広がる中、伊藤健太選手（体育4、中京大中京）は、左手の人差し指を高々と突き上げた。4月の日本選手権で五輪代表を逃してから5か月、9月7日のインカレ初日に、「水の王者」復活の瞬間だった。

自由形は、体格差がある。最速で泳ぐ「水の王者」の日本人選手では世界で通用 称号を胸に描いてきた。ロンドン五輪は50メートル、400メートル、1000メートルの代表を狙い、藤選手は自由形一筋に追求してきた。高校時代から期待を集め、昨年のインカレ100メートルでは日本歴代2位の記録を出した。水の中を

て直して臨んだ3日後の50メートルは優勝したものの、派遣標準記録に及ばなかった。100メートルは予選、準決勝、決勝と3回泳ぐため、ペース配分を考え、力を温存したのが裏目に出た。調子も自分が思っていたほど良くなかった。「悔しいというより、自分が情けなかつた」。水泳をやめようと思いついた。練習に出ず、東京の友達と1週間旅行もした。

☆ 水泳部の同期は「早く戻ってこいよ」と誘った。中

学2年から指導してきた佐々木祐一郎コーチは「ここでやめたら、ただ普通な選手で終わる。それでいいの？」と問いかけた。それでも気持ちが乗らないうま、5月下旬のジャパオープンに出場した。2位、3位に終わると、「負けるのは嫌だ、勝ちたい、と思う自分がいた」。伊藤選手はインカレを目標に、再び始動した。「水泳をやりたい」と心底思った。

インカレの400メートルリレーでは、100メートルを47秒78というロンドン五輪4 伊勢村優樹

銅メダルに相当する参考タイムをたたき出した。佐々木コーチが何よりも喜んだのは、50メートル、100メートルで予選から全力で勝負する姿だった。伊藤選手はひと回り成長して戻ってきた。

☆ 卒業後は中京大の大学院進学を希望している。長水路、短水路プールなど設備が充実している中京大で、佐々木コーチの指導を受ける一方で、自ら効率のいい泳ぎを研究するつもりだ。すでに4年後のリオ五輪を視野に入れ、1年ごとの課題を頭に入れていく。「国際大会で日本代表を続けることも大事だと思ってる」と伊藤選手。ますます「来年の世界選手権（スペイン）を狙う。（国際教養

パラリンピック 佐藤選手リレー4位の力走



8月末から行われたロンドンパラリンピックには、右足義足の佐藤圭太選手（体育3、焼津中央）Ⅱ写真Ⅱが短距離3種目に出場した。T44の200メートル、400メートルは予選敗退だったが、400メートルリレーの第2走者となり、45秒36の記録で4位入賞を果たした。

佐藤選手は、100メートル優勝した片足義足の英国選手が10秒台を出したのを目の当たりにして、「自分も気持ち高くなって、10秒台を目指していきたい」と、新たな目標を話している。

集中力で個人優勝



個人優勝した弓道部1年の佐藤千華選手

1年生佐藤選手 全日本学生で弓道部史上初の快挙

「初めての大きな試合で、約2時間の試合の間に、自分の射型は変えな」と思い続けて、弓を引いていました。弓道は兄の影響で高校1年から始めた。独特の礼儀作法やはかま姿が気に入りました。真剣さは、どの選手を見ても勉強になりました」とい

個人戦の決勝は、28歳の的的中を続け、勝ち残った選手が優勝となる。5本の中の段階で十数人に絞られる、的の大きさは直径36センチから24センチに小さくなつた。的中できない選手が残り、9本目を射抜いた佐藤選手が、弓道部史上初の個人優勝を手にした。

いつも明るい笑顔が絶やさないが、競技の話となる。優勝はまぐれだった、と言われないように、2年生で実績を残したいです。きっぱりと決意を話していた。（現代社会 1 長崎祐樹）

初戦は、強豪の日本を相手に、中京打線が計18安打を放ち、11-2で逆転勝ちした。準決勝で対戦した九産大は、昨年準々決勝で負けた相手。雪辱を果たしたいところだったが、投手陣が相手の中軸打線につかまり、中盤で7失点。何度か得点圏に走者を進めるも、あと1本が出ず、1-9で敗退した。（現代社会 2 宮田ひかり）

22年ぶり学生王座

男子ソフトテニス部は、第32回全日本学生王座決定戦（6月）で、22年ぶりに優勝した。11月中旬に韓国で開催予定の大会に日本代表として出場する。王座戦では、予選リーグを1位で通過し、準決勝で立命館大、決勝で早稲田大を下した。当時主将の荻原雅斗選手（体育4・東北）は「私たちの練習量は日本一。努力は決して裏切らないという自信がありました」と振り返る。韓国大会は中国、台湾の代表も参加する。初の国際試合となる荻原選手は「一番になって帰ってきたい」と意欲を燃やしている。（経営3 佐藤良祐）

ゴルフ中部對抗戦 初の団体優勝

ゴルフ部は、中部学生ゴルフ秋季1・2部對抗戦（9月19・20日、津CC）で、2位と1ストローク差で創部以来初の団体優勝を収めた。同時に、第56回信夫杯争奪日本大学對抗戦（ソ科1、同）兄弟の5人。

（10月25・26日、千葉C）の出場権を獲得した。優勝チームは杉浦齋選手（体育4、花園）、杉下圭史選手（体育4、北海学園札幌）、岡島一起選手（体育4、啓成）と、寺嶋慶介選手（体育3、北海学園札幌）。

信天杯は、東北福祉大、日大、専修大、大阪学院大など強豪校が名を連ねるが、主将の寺嶋慶介選手は「5位入賞を目指したい」と意気込みを語った。

男子ソフトボール部は、西日本大学ソフトボール選手権（8月、西カレ）で、エース深津修平投手（体育3、豊川）が好投、優勝した。西カレ優勝は16年ぶり17回目。

西カレに続く9月の全日本大学選手権（インカレ）では、準決勝で東日本の覇者、早稲田大と対戦。それまでの3試合を投げ抜いてきた深津投手が力投したが、8-0で敗退、3年連続のベスト4となった。

連続8強 準硬式野球部は、8月下旬の全日本大学選手権大会（インカレ）に出場し、昨年に続きベスト8となった。今年は9年ぶりに愛知県で開催された。

初戦は、強豪の日大を相手に、中京打線が計18安打を放ち、11-2で逆転勝ちした。準決勝で対戦した九産大は、昨年準々決勝で負けた相手。雪辱を果たしたいところだったが、投手陣が相手の中軸打線につかまり、中盤で7失点。何度か得点圏に走者を進めるも、あと1本が出ず、1-9で敗退した。（現代社会 2 宮田ひかり）

インカレ ベスト4

男子ソフト

1部復帰へ快進撃

硬式野球 2部優勝 入れ替え戦出場

10月6日の至学館大戦六回裏、走者一掃の適時打を放った金田忠大選手(現代社会1 吉田梨花子撮影)



投万全 打はヒーロー次々

愛知大学野球2部の硬式野球部は、「1部昇格」を合言葉に監督、コーチ、選手、スタッフが丸となった。10月6日の第6週初日に至学館大を破り、2試合を

3日から、名古屋市の瑞穂球場で1部復帰をかけて愛知産業大(1部6位)との入れ替え戦に出場する。10月6日の第6週初日に至学館大を破り、2試合を勝をつかんだ。

チームを支えたのは、清水翔太投手(体育3、麗澤瑞浪)、岡部直人投手(スポーツ科1、いなべ総合学園)、杉山竜之投手(体育3、春日丘)ら投手陣だ。

主戦の清水投手はリーグ戦5勝とプレオの計6勝をすべて完投勝ち。岡部投手も1年生ながら春季に続き、半田卓也監督の期待に応えた。この両腕が先発を担い、右腕の杉山投手が好リリーフを見せた。特に清水投手は、プレオを含め3完封。「ゼロで抑えたことで打者にいい流れを与えられた」と振り返った。

一方、打線は絶対的な柱は欠いたが、日替わりでヒーローが現れた。島中裕麻選手(スポーツ科2、三1、至学館)らが競いながら二塁打を打ち、4年生の底力を見せた。2部B1位を決めた至学館大戦で、山中涉伍主将(体育3、えいてい)、岩月美奈(体育3、報徳学園)は、金田忠大選手(体育、中京大)は「やっとな」岩月美奈

残して2部Bの1位を決めた。最終成績は9勝1敗だった。同20日、2部A1位の東海学園大とのプレオを2-0で勝ち、2部優勝をつかんだ。

チームを支えたのは、清水翔太投手(体育3、麗澤瑞浪)、岡部直人投手(スポーツ科1、いなべ総合学園)、杉山竜之投手(体育3、春日丘)ら投手陣だ。主戦の清水投手はリーグ戦5勝とプレオの計6勝をすべて完投勝ち。岡部投手も1年生ながら春季に続き、半田卓也監督の期待に応えた。この両腕が先発を担い、右腕の杉山投手が好リリーフを見せた。特に清水投手は、プレオを含め3完封。「ゼロで抑えたことで打者にいい流れを与えられた」と振り返った。

一方、打線は絶対的な柱は欠いたが、日替わりでヒーローが現れた。島中裕麻選手(スポーツ科2、三1、至学館)らが競いながら二塁打を打ち、4年生の底力を見せた。2部B1位を決めた至学館大戦で、山中涉伍主将(体育3、えいてい)、岩月美奈(体育3、報徳学園)は、金田忠大選手(体育、中京大)は「やっとな」岩月美奈

残して2部Bの1位を決めた。最終成績は9勝1敗だった。同20日、2部A1位の東海学園大とのプレオを2-0で勝ち、2部優勝をつかんだ。

チームを支えたのは、清水翔太投手(体育3、麗澤瑞浪)、岡部直人投手(スポーツ科1、いなべ総合学園)、杉山竜之投手(体育3、春日丘)ら投手陣だ。

主戦の清水投手はリーグ戦5勝とプレオの計6勝をすべて完投勝ち。岡部投手も1年生ながら春季に続き、半田卓也監督の期待に応えた。この両腕が先発を担い、右腕の杉山投手が好リリーフを見せた。特に清水投手は、プレオを含め3完封。「ゼロで抑えたことで打者にいい流れを与えられた」と振り返った。

一方、打線は絶対的な柱は欠いたが、日替わりでヒーローが現れた。島中裕麻選手(スポーツ科2、三1、至学館)らが競いながら二塁打を打ち、4年生の底力を見せた。2部B1位を決めた至学館大戦で、山中涉伍主将(体育3、えいてい)、岩月美奈(体育3、報徳学園)は、金田忠大選手(体育、中京大)は「やっとな」岩月美奈

残して2部Bの1位を決めた。最終成績は9勝1敗だった。同20日、2部A1位の東海学園大とのプレオを2-0で勝ち、2部優勝をつかんだ。

チームを支えたのは、清水翔太投手(体育3、麗澤瑞浪)、岡部直人投手(スポーツ科1、いなべ総合学園)、杉山竜之投手(体育3、春日丘)ら投手陣だ。

主戦の清水投手はリーグ戦5勝とプレオの計6勝をすべて完投勝ち。岡部投手も1年生ながら春季に続き、半田卓也監督の期待に応えた。この両腕が先発を担い、右腕の杉山投手が好リリーフを見せた。特に清水投手は、プレオを含め3完封。「ゼロで抑えたことで打者にいい流れを与えられた」と振り返った。

アメフト「諦めない」

アメリカンフットボール部は、「挑戦」をスローガンに掲げ、秋季東海学生リーグで奮闘している。昨年は6年ぶりに優勝し、東海地区代表として全日本大学選手権ベスト4に躍進した実績がある。今季はライバルの名城大に敗退し、東海リーグ2連覇は難しくなったものの、最後まで諦めない姿勢を堅持している。

アメフト部は、東海リーグで1981年から16年間で13回優勝の常勝軍団だった。現チームは、古豪復活を目指す。10月21日の南山戦に逆転勝ち、今季は11月3日の名城大戦が最終となる。河村主将は「OBの方がグラウンドに残した思いを胸に、絶対に諦めない姿勢でプレーしていく」と、「挑戦」する姿を後輩に伝えていく。

福森雄大選手(現社2、津西)が、開幕2試合で4タッチダウンを奪うなど、下級生の成長も著しい。

10月21日の南山戦に逆転勝ち、今季は11月3日の名城大戦が最終となる。河村主将は「OBの方がグラウンドに残した思いを胸に、絶対に諦めない姿勢でプレーしていく」と、「挑戦」する姿を後輩に伝えていく。

福森雄大選手(現社2、津西)が、開幕2試合で4タッチダウンを奪うなど、下級生の成長も著しい。

10月21日の南山戦に逆転勝ち、今季は11月3日の名城大戦が最終となる。河村主将は「OBの方がグラウンドに残した思いを胸に、絶対に諦めない姿勢でプレーしていく」と、「挑戦」する姿を後輩に伝えていく。

福森雄大選手(現社2、津西)が、開幕2試合で4タッチダウンを奪うなど、下級生の成長も著しい。

10月21日の南山戦に逆転勝ち、今季は11月3日の名城大戦が最終となる。河村主将は「OBの方がグラウンドに残した思いを胸に、絶対に諦めない姿勢でプレーしていく」と、「挑戦」する姿を後輩に伝えていく。

福森雄大選手(現社2、津西)が、開幕2試合で4タッチダウンを奪うなど、下級生の成長も著しい。



名城大戦で、ボールを持って突進するQBの岩田選手(現代社会2 松本彩花撮影)

立役者1年生泉田選手【フェンシング部】1年生の泉田敦哉選手(写真=スポーツ科、岐阜各務野)は、全日本学生王座定戦(6月)で、男子エペの初優勝に貢献した期待の新人だ。「緊張せず自分のスタイルで試合に臨むことができた」と、強豪校との連戦を振り返る。

エペは相手のどこを突いてもいい競技。泉田選手は1m80の長身を武器にしている。今年2月のスウェーデン大会で、初めて海外選手と対戦、自信をつけた。「チームではエペの専門は自分一人。だからエペは自分が引っ張っていく」と、決意を話している。(現代社会2 山田翔子)

女子バレーボール部は、東海大学秋季リーグで、1セットも落とさないうストリート勝ちを続け、秋季6連覇を達成した。日本インカレ(6月、兵庫エースの川島 県)は鹿屋体育大に惜敗して3位だったが、12月3日

里華選手(体育3、九州文)からの全日本大学女子選手権、セッターの森田 香(インカレ、神奈川県)の活躍を軸に、得意のコンビバレーを展開している。西す。

女子バレーボール部は、東海大学秋季リーグで、1セットも落とさないうストリート勝ちを続け、秋季6連覇を達成した。日本インカレ(6月、兵庫エースの川島 県)は鹿屋体育大に惜敗して3位だったが、12月3日

里華選手(体育3、九州文)からの全日本大学女子選手権、セッターの森田 香(インカレ、神奈川県)の活躍を軸に、得意のコンビバレーを展開している。西す。

女子バレーボール部は、東海大学秋季リーグで、1セットも落とさないうストリート勝ちを続け、秋季6連覇を達成した。日本インカレ(6月、兵庫エースの川島 県)は鹿屋体育大に惜敗して3位だったが、12月3日

愛知県高校教員合格 小笠原 聖峰さん(硬式野球部) 3年の春の練習に励んだ。秋から、週末に母校の野球部コーチを務め、採用試験の勉強を始めた。授業以外は、教職演習室に朝9時から夜11時まで詰め、十数人の仲間と勉強した。資格対策講座は、とても役立った。ゼミの指導、教務課のグループ学習会、大学OBの先生方による面接講習など、他大にはない指導のおかげで合格できた。コーチの経験もプラスだった。

公立学校の教員採用試験で、2012年度もクラブ活動経験者の現役合格が相次いでいる。採用試験の対策とクラブ活動をどう両立させてきたのか。何が役立ったか。体育学部4年の小笠原聖峰さん(豊田西)、澤沙希子さん(津山)、大川卓馬さん(津西)の3人に、経験を聞いた。

岡山県で中学校保健体育合格者13人という難関を突破できた。中学保健教員を目指し入学したが、幅を広げるため、玉川大通信教育で小学校免許取得も目指している。教職演習室で仲間と勉強した。クラブに時間を割くため、勉強時間を決め、集中した。岡山県の過去問題を10年分解き、傾向をつかんだのがよかった。サッカーのポジションはFW。12月末のインカレを目指し、東海予選を突破したい。

愛知県高校教員合格 小笠原 聖峰さん(硬式野球部) 3年の春の練習に励んだ。秋から、週末に母校の野球部コーチを務め、採用試験の勉強を始めた。授業以外は、教職演習室に朝9時から夜11時まで詰め、十数人の仲間と勉強した。資格対策講座は、とても役立った。ゼミの指導、教務課のグループ学習会、大学OBの先生方による面接講習など、他大にはない指導のおかげで合格できた。コーチの経験もプラスだった。

公立学校の教員採用試験で、2012年度もクラブ活動経験者の現役合格が相次いでいる。採用試験の対策とクラブ活動をどう両立させてきたのか。何が役立ったか。体育学部4年の小笠原聖峰さん(豊田西)、澤沙希子さん(津山)、大川卓馬さん(津西)の3人に、経験を聞いた。

岡山県で中学校保健体育合格者13人という難関を突破できた。中学保健教員を目指し入学したが、幅を広げるため、玉川大通信教育で小学校免許取得も目指している。教職演習室で仲間と勉強した。クラブに時間を割くため、勉強時間を決め、集中した。岡山県の過去問題を10年分解き、傾向をつかんだのがよかった。サッカーのポジションはFW。12月末のインカレを目指し、東海予選を突破したい。

愛知県高校教員合格 小笠原 聖峰さん(硬式野球部) 3年の春の練習に励んだ。秋から、週末に母校の野球部コーチを務め、採用試験の勉強を始めた。授業以外は、教職演習室に朝9時から夜11時まで詰め、十数人の仲間と勉強した。資格対策講座は、とても役立った。ゼミの指導、教務課のグループ学習会、大学OBの先生方による面接講習など、他大にはない指導のおかげで合格できた。コーチの経験もプラスだった。

愛知県高校教員合格 小笠原 聖峰さん(硬式野球部) 3年の春の練習に励んだ。秋から、週末に母校の野球部コーチを務め、採用試験の勉強を始めた。授業以外は、教職演習室に朝9時から夜11時まで詰め、十数人の仲間と勉強した。資格対策講座は、とても役立った。ゼミの指導、教務課のグループ学習会、大学OBの先生方による面接講習など、他大にはない指導のおかげで合格できた。コーチの経験もプラスだった。

公立学校の教員採用試験で、2012年度もクラブ活動経験者の現役合格が相次いでいる。採用試験の対策とクラブ活動をどう両立させてきたのか。何が役立ったか。体育学部4年の小笠原聖峰さん(豊田西)、澤沙希子さん(津山)、大川卓馬さん(津西)の3人に、経験を聞いた。

岡山県で中学校保健体育合格者13人という難関を突破できた。中学保健教員を目指し入学したが、幅を広げるため、玉川大通信教育で小学校免許取得も目指している。教職演習室で仲間と勉強した。クラブに時間を割くため、勉強時間を決め、集中した。岡山県の過去問題を10年分解き、傾向をつかんだのがよかった。サッカーのポジションはFW。12月末のインカレを目指し、東海予選を突破したい。

愛知県高校教員合格 小笠原 聖峰さん(硬式野球部) 3年の春の練習に励んだ。秋から、週末に母校の野球部コーチを務め、採用試験の勉強を始めた。授業以外は、教職演習室に朝9時から夜11時まで詰め、十数人の仲間と勉強した。資格対策講座は、とても役立った。ゼミの指導、教務課のグループ学習会、大学OBの先生方による面接講習など、他大にはない指導のおかげで合格できた。コーチの経験もプラスだった。

公立学校の教員採用試験で、2012年度もクラブ活動経験者の現役合格が相次いでいる。採用試験の対策とクラブ活動をどう両立させてきたのか。何が役立ったか。体育学部4年の小笠原聖峰さん(豊田西)、澤沙希子さん(津山)、大川卓馬さん(津西)の3人に、経験を聞いた。

岡山県で中学校保健体育合格者13人という難関を突破できた。中学保健教員を目指し入学したが、幅を広げるため、玉川大通信教育で小学校免許取得も目指している。教職演習室で仲間と勉強した。クラブに時間を割くため、勉強時間を決め、集中した。岡山県の過去問題を10年分解き、傾向をつかんだのがよかった。サッカーのポジションはFW。12月末のインカレを目指し、東海予選を突破したい。

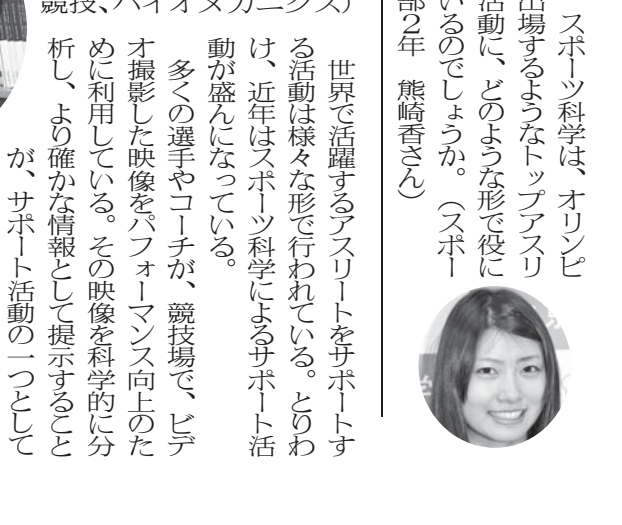
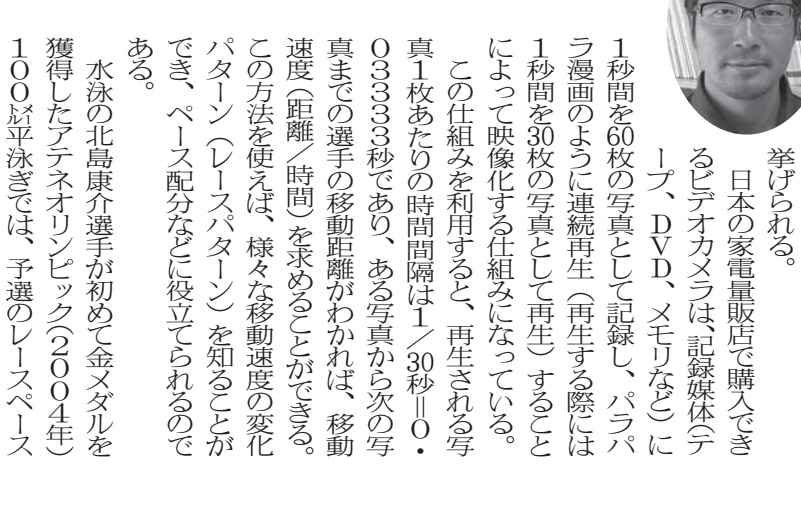
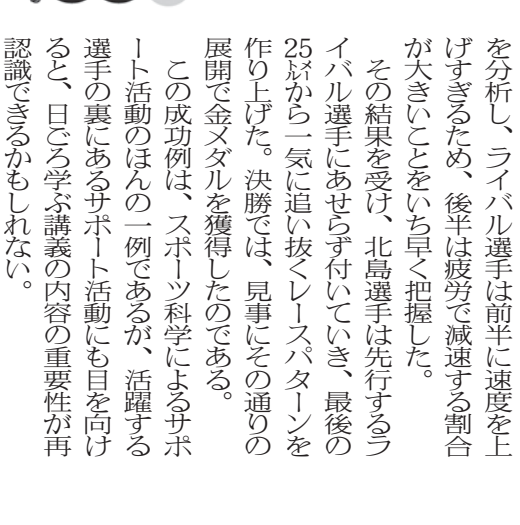
愛知県高校教員合格 小笠原 聖峰さん(硬式野球部) 3年の春の練習に励んだ。秋から、週末に母校の野球部コーチを務め、採用試験の勉強を始めた。授業以外は、教職演習室に朝9時から夜11時まで詰め、十数人の仲間と勉強した。資格対策講座は、とても役立った。ゼミの指導、教務課のグループ学習会、大学OBの先生方による面接講習など、他大にはない指導のおかげで合格できた。コーチの経験もプラスだった。

先生に聞こう ビデオ分析 強力なサポート

世界の活躍するアスリートをサポートする活動は様々な形で進められている。とりわけ、近年はスポーツ科学によるサポート活動が盛んになっている。多くの選手やコーチが、競技場で、ビデオ撮影した映像をパフォーマンス向上のために利用している。その映像を科学的に分析し、より確かな情報として提示することが、サポート活動の一つとして挙げられる。

日本の家電量販店で購入できるビデオカメラは、記録媒体(テープ、DVD、メモリなど)に1秒間を60枚の写真として記録し、パラパラ漫画のように連続再生(再生する際には1秒間を30枚の写真として再生)することによって映像化する仕組みになっている。この仕組みを利用すると、再生される写真1枚あたりの時間間隔は1/30秒(0.03333秒)であり、ある写真から次の写真までの選手の移動距離がわかれば、移動速度(距離/時間)を求めることができる。この方法を使えば、様々な移動速度の変化パターン(レースパターン)を知ることができ、ペース配分などに役立てられるのである。

水泳の北島康介選手が初めて金メダルを獲得したアテネオリンピック(2004年)100m平泳ぎでは、予選のレースペースを分析し、ライバル選手は前半に速度を上げすぎたため、後半は疲労で減速する割合が大きいことをいち早く把握した。その結果を受け、北島選手は先行するライバル選手にあせらず付いていき、最後の25mから一気に追いつき、レースパターンを作り上げた。決勝では、見事にその通りの展開で金メダルを獲得したのである。この成功例は、スポーツ科学によるサポート活動のほんの一例であるが、活躍する選手の裏にあるサポート活動にも目を向けると、日々学ぶべき内容の重要性が再認識できるかもしれない。



冬本番に賭ける

「ソチ狙う」4人はライバル

フリースタイルスキー、女子モーグルの田村悠選手（体育3、富山第一）ら4選手が、シーズン本番に向け、体力づくりと技術練習に励んでいる。今冬をステップにして、2014年2月に開催されるソチ冬季五輪出場を狙っている。



ソチ五輪を目標としている4選手（左から、田村、市村、加藤、岩本選手）

女子モーグル 学内で切磋琢磨



ウォータージャンプ台でエアの練習をする女子モーグルの選手たち（長野県大町市で）

4人とも小学生からモーグルを始めた。バンクーバー五輪に出場した伊藤みき選手（10年体育卒）にあこがれ、「大学に理解があり、競技をしやすい」と、今年3月の全日本選手権で中京大に進学した。今年3月の全日本選手権

長いオフの間に、どれだけ練習するかが重要な。夏休みは、連盟の合宿のほか、長野県白馬に集まり、ウォータージャンプ台ですぐ濡れながら特訓した。四人で練習する時は、ジャンプの出来を互いに確認しあうため、「モチベーションも上がる」（加藤選手）。ライバルであると同時に、仲のいいスキー競技部員でもある。

スキー・アルペン大回転の森本優希選手（体育4、飛騨高山）は、ひざの大ケガを治し、冬本番に間に合わせようと、懸命にリハビリ中だ。来年2月の全日本学生選手権（インカレ）は、1部（15大学）に復帰して迎える。主将の森本選手は「総合で10位以内に入ろう」と部員に呼びかけ、自らを鼓舞している。



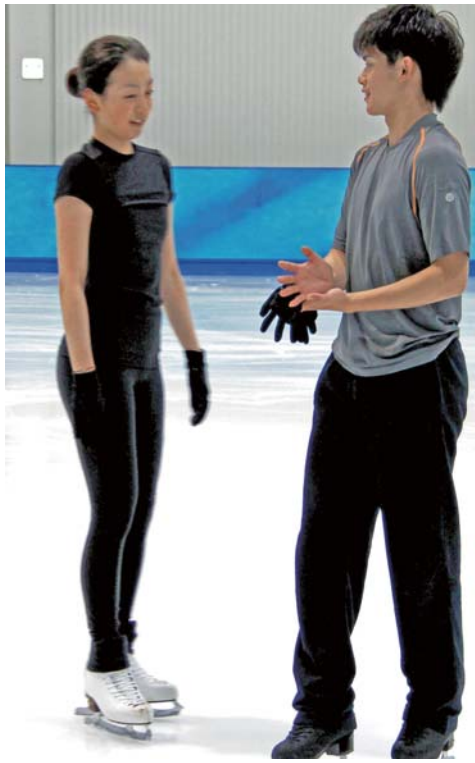
リハビリに取り組み森本選手

森本選手は、今年3月末のジャイアントスラローム（大回転）大会で転倒、前十字靭帯を切った。「早く復帰して競技を続けたい」と、4月初めに手術を受け、翌日からリハビリを始めた。1週間歩き、3か月弱で走れるようになった。週3回のウエートトレーニングをこなし、夏休みは高山で合宿をした。大回転は、最大時速約90kmで滑走するが、最も大切な「体の軸を保つ」訓練にも取り組んでいる。

森本選手は2年生の時、全日本選手権スーパー大回転で大学生では最高の6位に入賞した経験があり、全日本で優勝するのが目標だ。大学生最後のシーズンは、チームと個人の両方で力を出し切る。

フィギュアGPに4人

フィギュアスケートのグランプリ（GP）シリーズが、10月19日の米国大会で開幕し、小塚崇彦選手（体育修士2）が優勝した。今季は、学園から小塚選手をはじめ、浅田真央選手（体育4、中京大中京）、無良崇人選手（体育4、倉敷翠松）、村上佳菜子選手（中京大中京3）が出場する。4人の出場は過去最多。12月にロシアのソチで開かれるGPファイナル進出を目指している。



中京大学アイスアリーナで練習する小塚選手（右）と浅田選手（現代社会2 山田翔子撮影）

「今取り組んでいること、ファイナル進出、さらさら」

浅田選手「悔しさ晴らしたい」
小塚選手「ソチをを考えて練習」

「悔しさ晴らしたい」浅田選手は、2年ぶりのシリーズ出場。「昨年はGPシリーズに出られなかったのが、一戦一戦を大切に練習すること集中していきます」と意気込みを語る。小塚選手は、すでに2014年ソチ五輪を見据えている。

学園選手らの出場予定

日程	会場	選手
▽10月19日	米国	小塚
▽10月26日	カナダ	無良、村上
▽11月2日	中国	浅田
▽11月9日	ロシア	小塚、村上
▽11月16日	フランス	無良
▽11月23日	日本	浅田



中村主将

目標は大学選手権優勝

サッカー けが人復帰し戦力充実

7月の全日本大学トーナメントはベスト8にとどまり、天皇杯は8月に社会人にPK戦で破れ、愛知県代表を逃した。それだけに、大学選手権ではリベンジを果たそうと、意気が上がっている。

「インカレ1勝を」アイスホッケー

アイスホッケー部は、来報理工、現代社会など多様な対戦相手と対戦し、インカレに出場し、どうゲームプランを立てるかで勝敗が分かれる。昨年は、強豪の早稲田大学に力の差を見せつけられ、小玉邑柳主将は「全国大会で勝つには愛知県のレベルに合わせてほしい」と、全国を意識して香

復活へ懸命リハビリ

アルペン大回転・森本選手